

お坊ちやまの  
性処理道具に  
された

僕の母





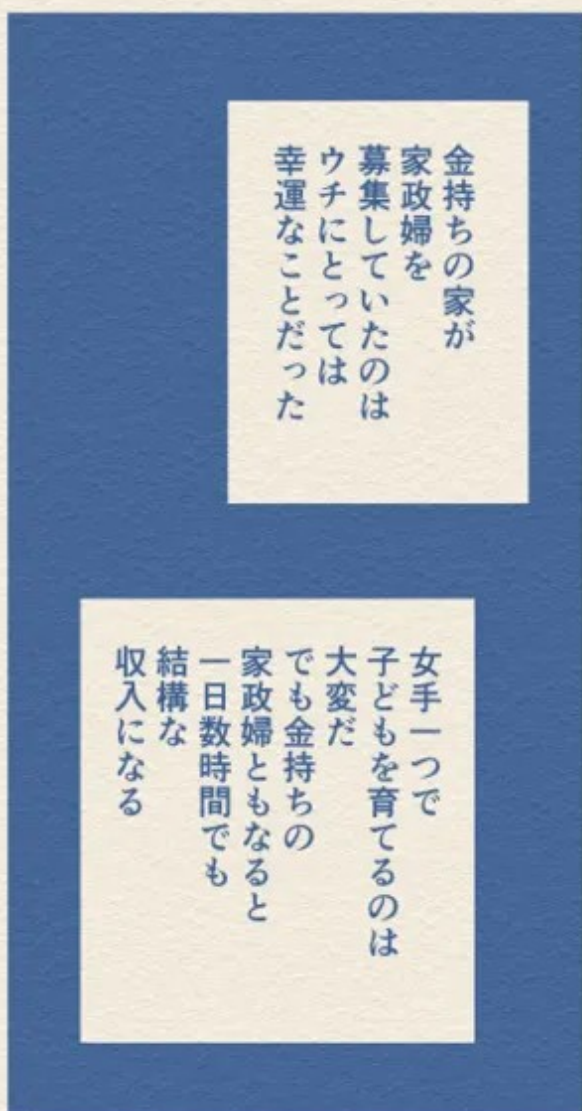
母が  
午後から  
家政婦として  
働くことになった

う、うん…



それじゃ  
ユウイチ

母さん行ってくるから  
戸締りはしっかりね



金持ちの家が  
家政婦を  
募集していたのは  
ウチにとっては  
幸運なことだった

女手一つで  
子どもを育てるのは  
大変だ  
でも金持ちの  
家政婦ともなると  
一日数時間でも  
結構な  
収入になる



これも  
生活のためだからね  
我慢してちょうだい

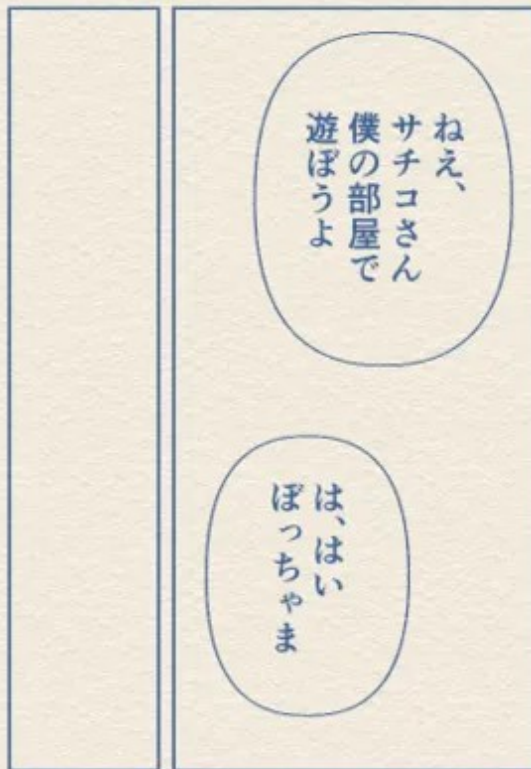
わかってるよ

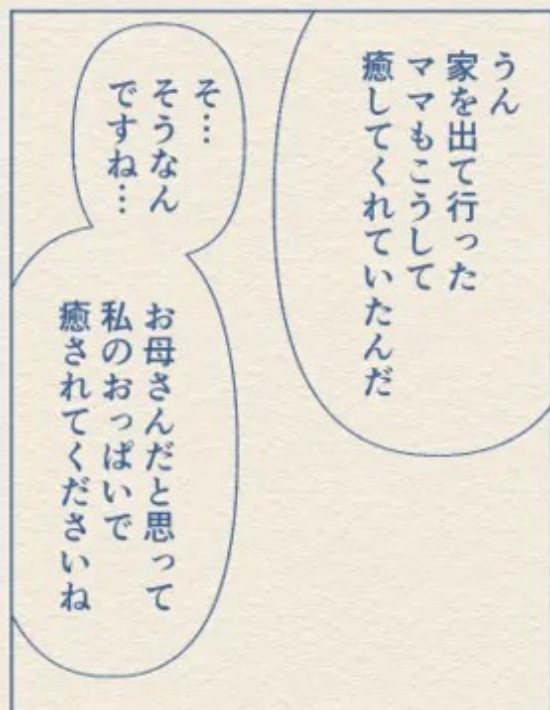
お坊ちやまの  
性処理道具にされた

僕の母

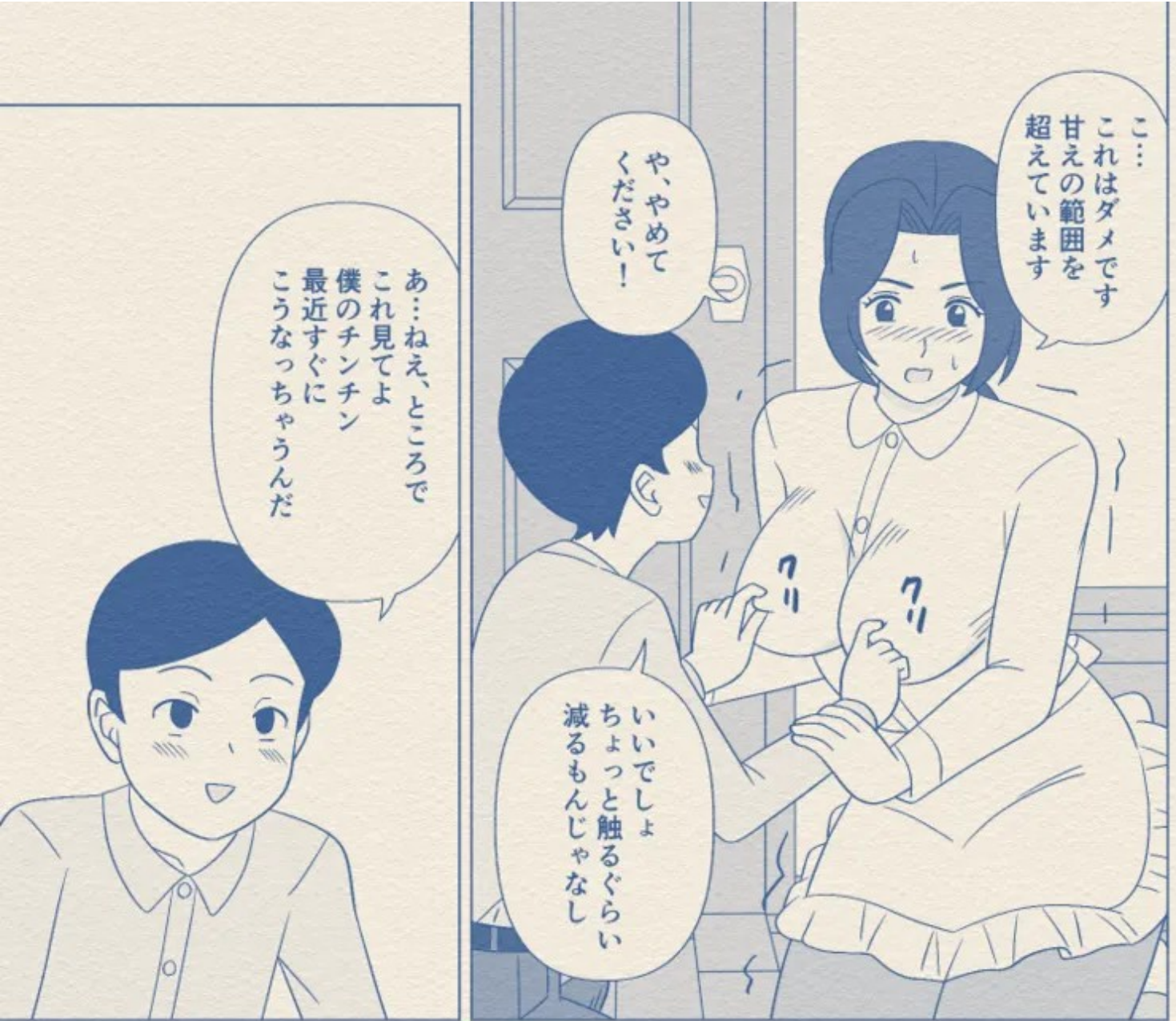
UKI\_S











ふーん  
じゃあ仕方ないか…  
その代わりサチコさんは  
今日でクビだからね  
パパにサチコさんが  
甘えさせてくれないって  
言うから…

この仕事…  
いつも募集してるのは  
この子のせい…

でも…  
これぐらい  
なら

こ、これで  
よろしいでしょうか  
ぼっちゃま

いいね  
その調子  
そのまま次は  
キスだよ

え？

家を出て行った  
ママがよく  
してくれて  
いたんだ

はあ…  
それでは…  
ほっぺに

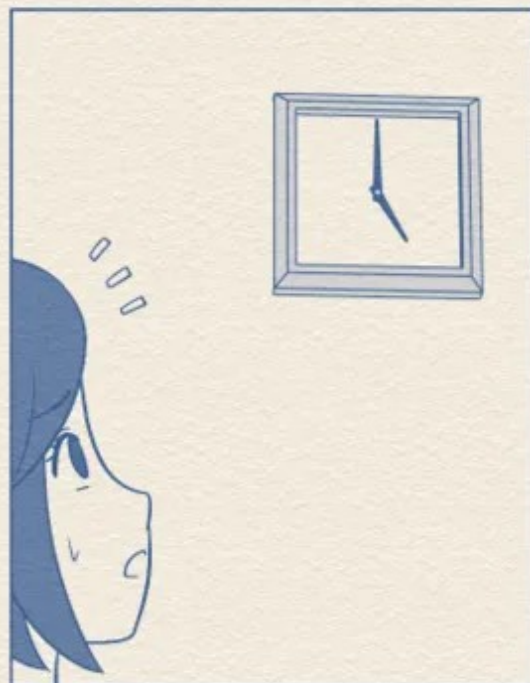
チュ







はあ：サチコさん  
ありがとう  
なかなか  
良かったよ



そろそろ  
夕飯の支度を  
しますので...

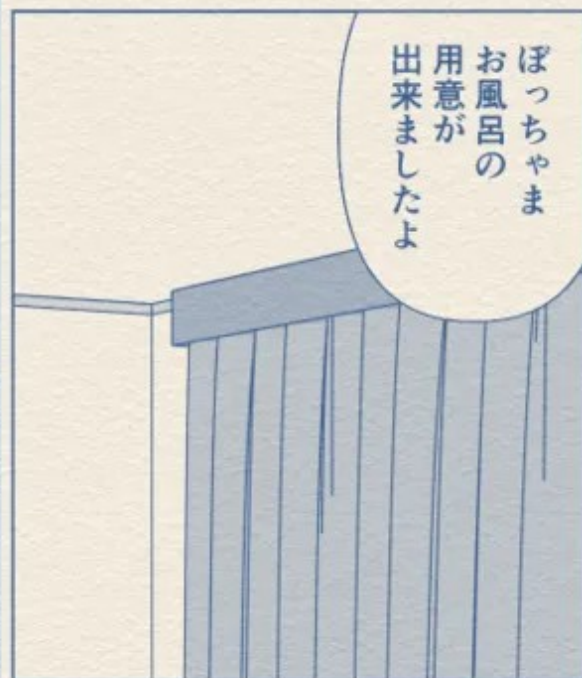
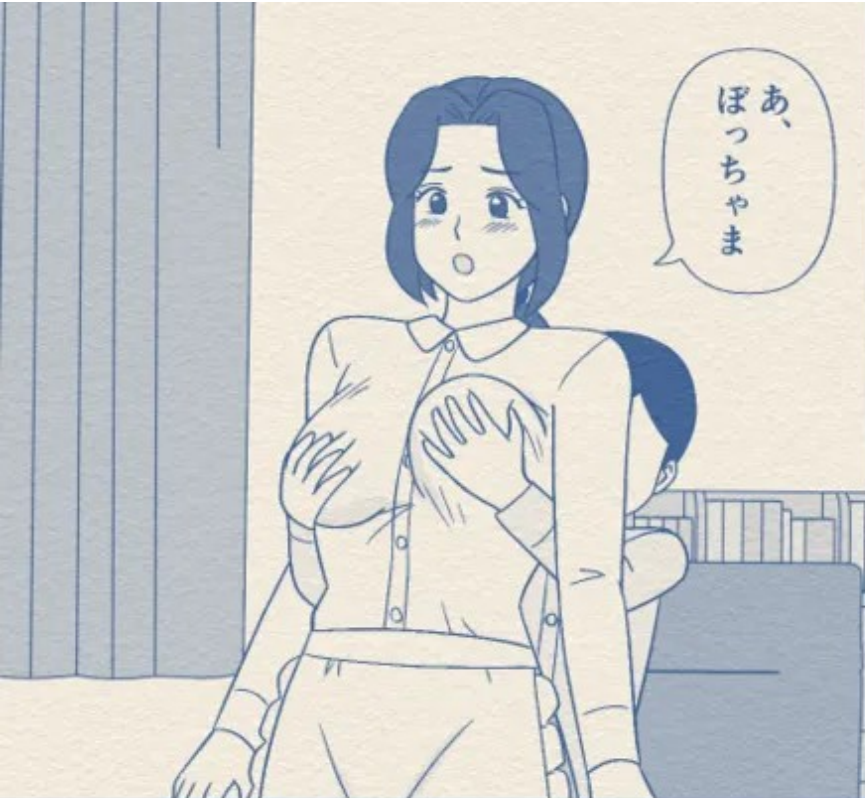
あの  
ぼっちゃんま

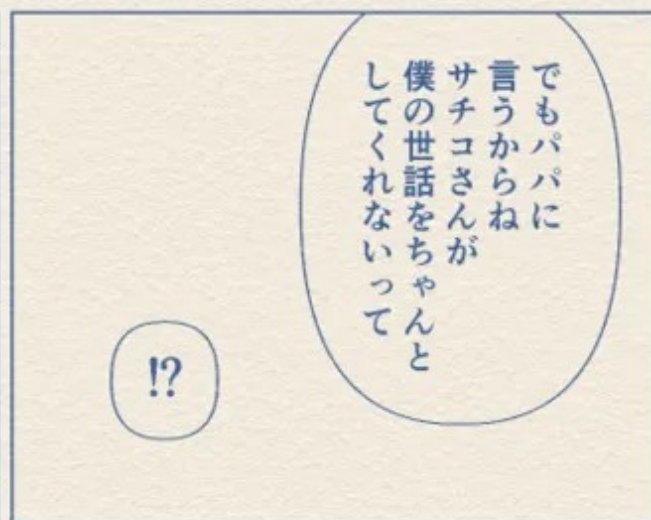
あ、うん

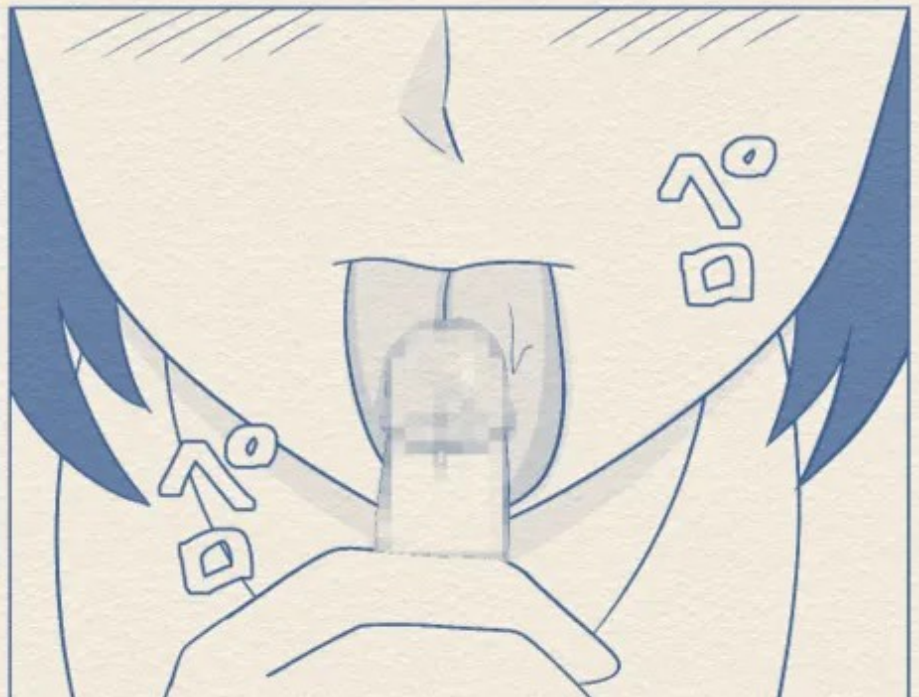
たぽ

フルン













お坊ちやまの  
世話係として  
雇われた  
母の勤務時間は  
午後から  
夜8時までだった

少なくとも  
あったけど  
母との時間はあった

ただいま  
ユウイチ

おかえりなさい  
母さん

お金持ちの  
お坊ちやま  
嫌な奴じゃ  
なかった？

素直な良い子よ  
ちゃんと  
言うことも  
聞いてくれるわ

へー、そうなんだ  
お金持ちだから  
ワガママで嫌な奴かと  
思ってたんだ

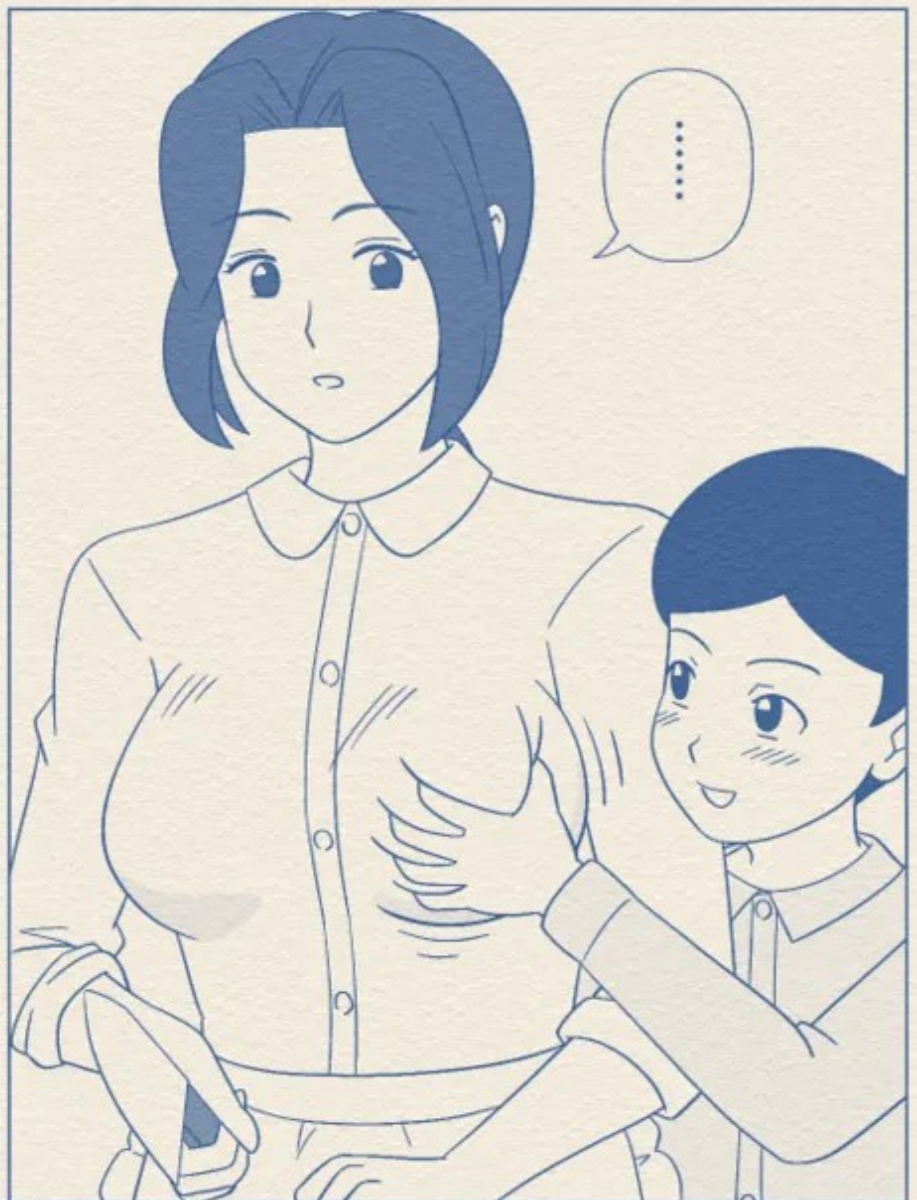
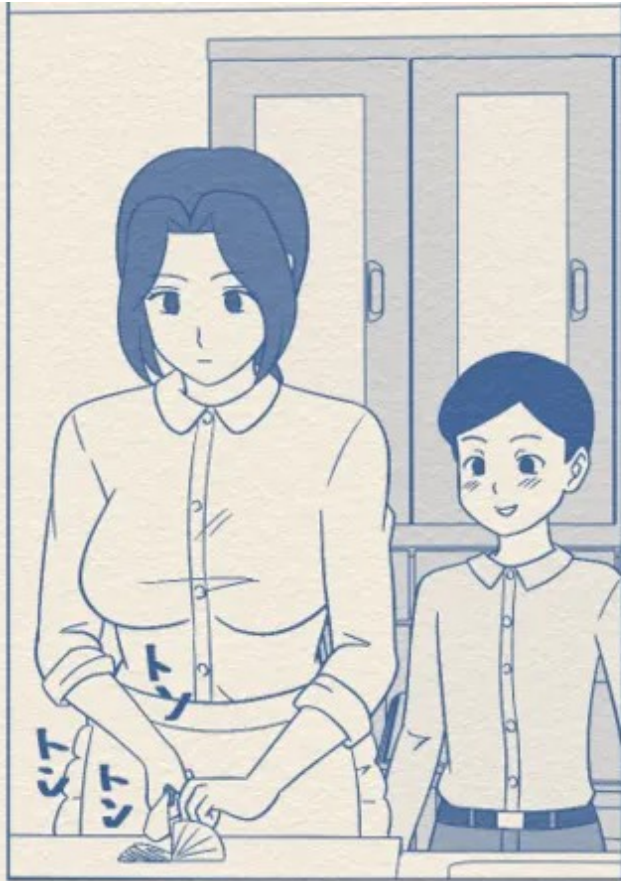
ふふっ  
そうなのね  
でも大丈夫よ

今日一日で  
ずいぶん仲良  
くなったから  
しばらく  
お母さんが  
お世話を任される  
ことになったの

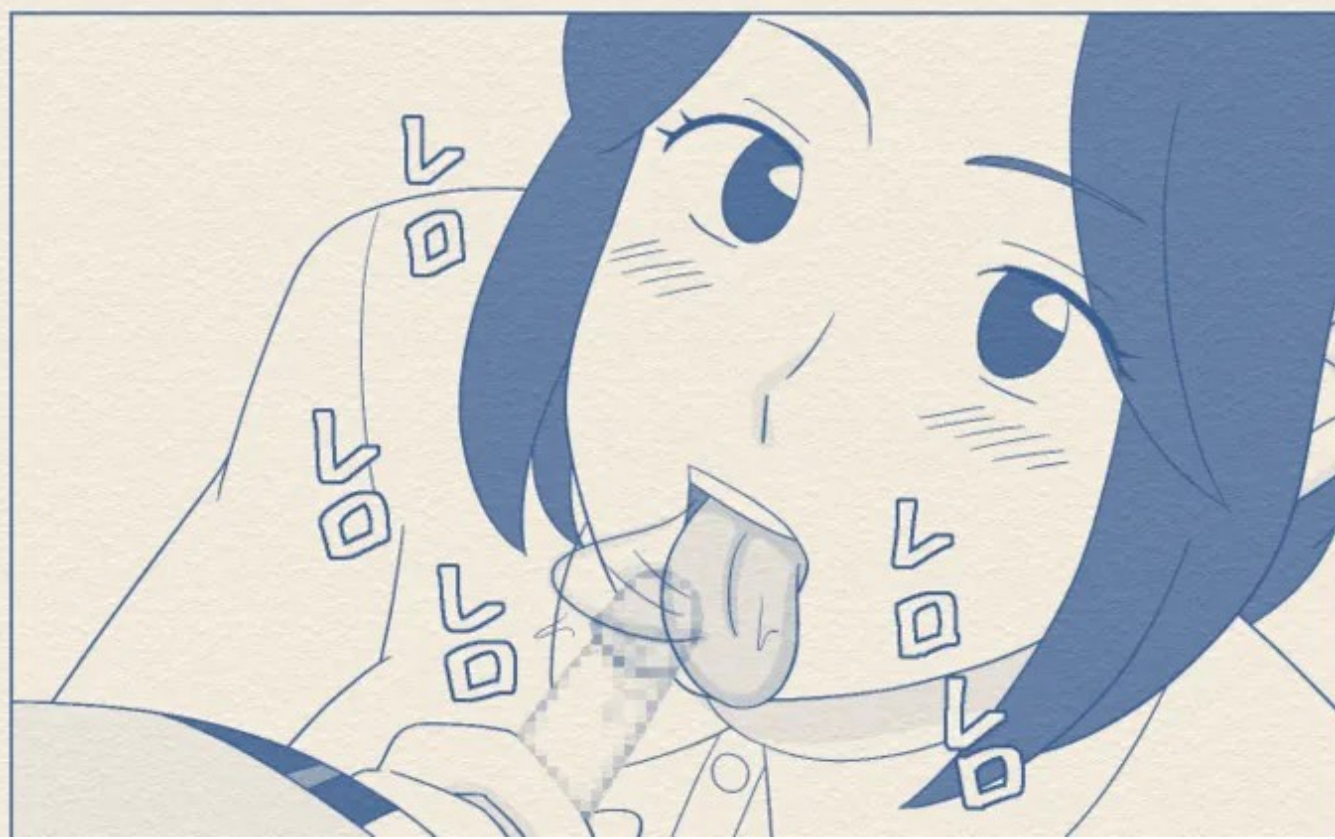
へー、すごいや  
さすが母さん

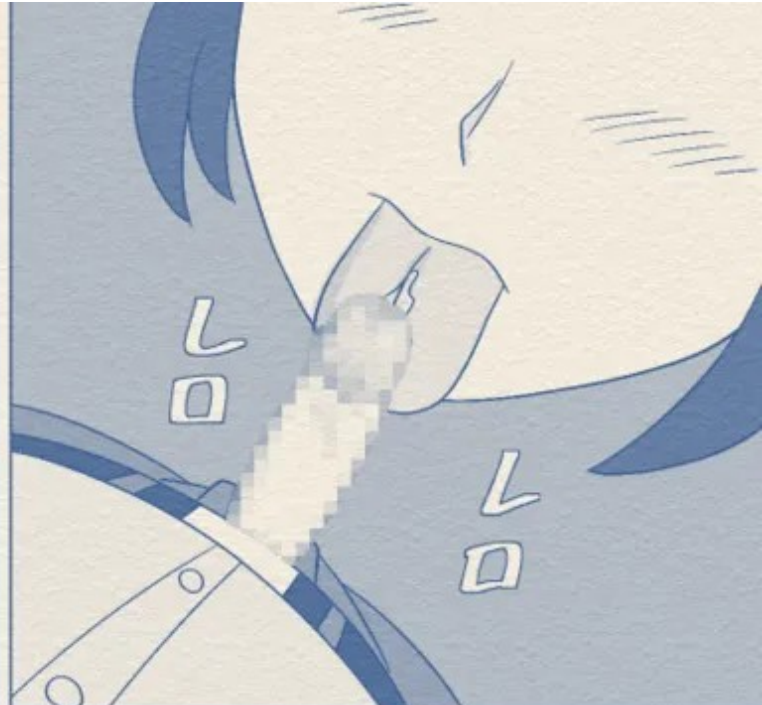
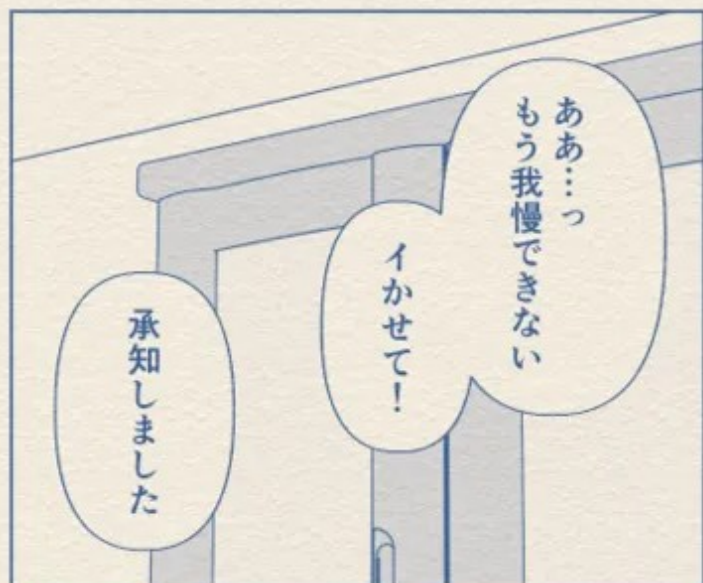
母の口の端に  
白い何かが  
ついてるように  
見えたが

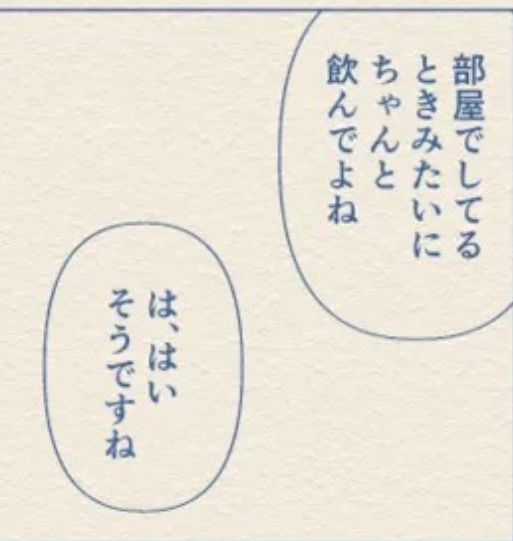
その時の僕は  
それがなんなのか  
よくわからなかった

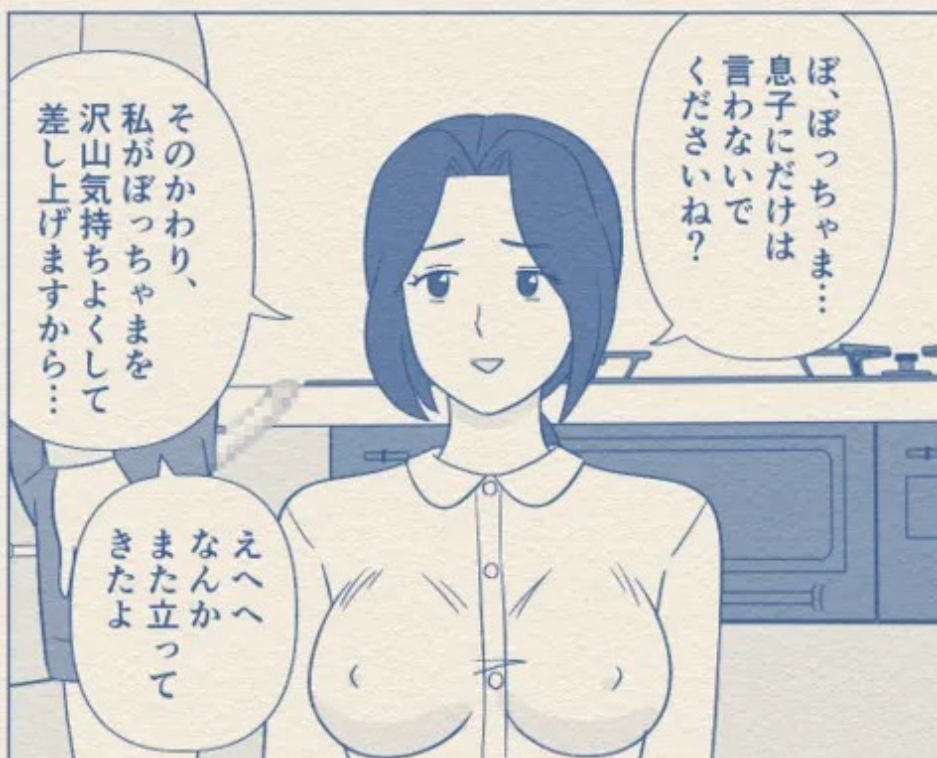
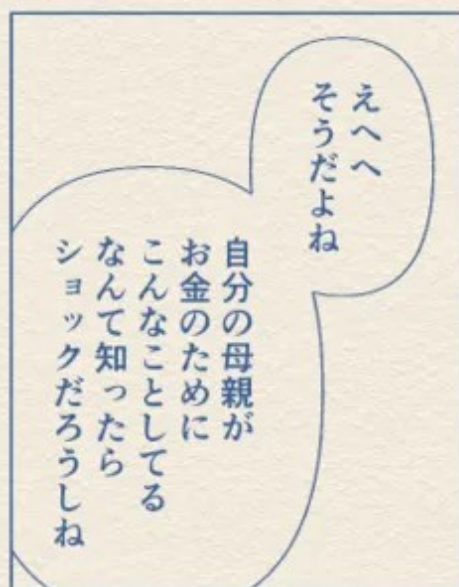














一カ月後  
母はお坊ちやまに  
気に入られたらしく  
帰りが遅くなることが  
増えてきた

僕は  
なんだか  
不安だった…

それじゃ  
ユウイチ、  
お母さん  
行ってくるわね

いって  
らっしゃい

今日も  
少し遅くなるかも  
しれないけど、  
9時までには  
帰ってくるから

ね、ねえ…  
ミツルくんの歳って  
僕の一つ下なんだよね？  
どんなお世話してるの？

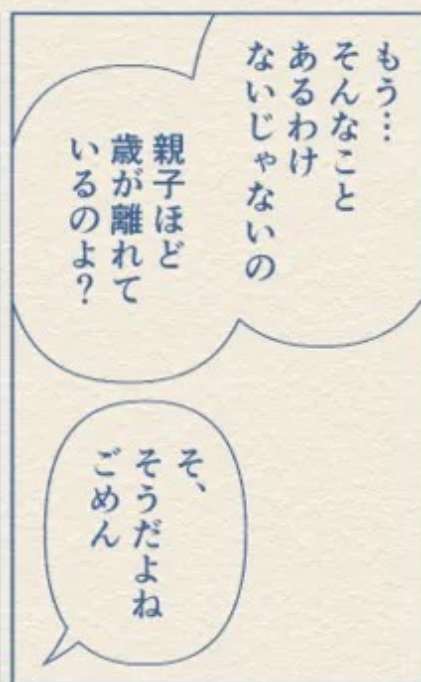
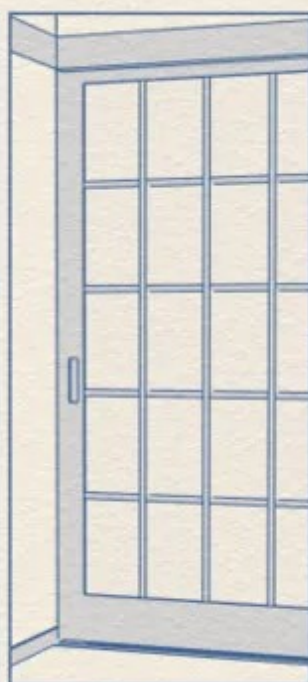
急にどうしたの？  
ただの子守よ

…夕方まで  
おやつを用意したり  
少し遊んだりして  
夕飯とお風呂の  
お世話をして  
おしまいよ

お風呂!!  
お風呂って  
一緒に入るの？

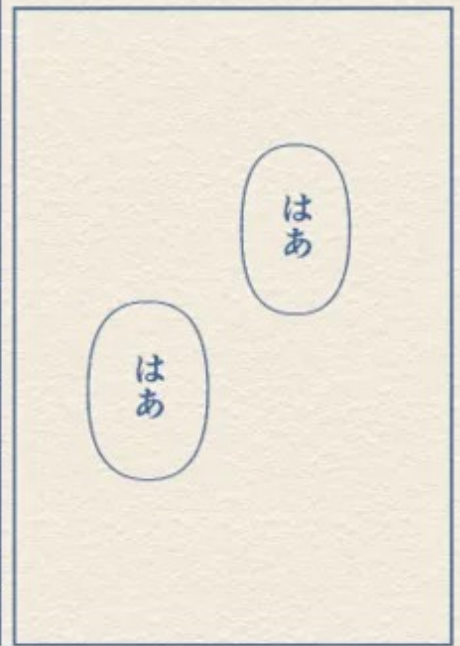
ふふっ  
そんなわけ  
ないじゃない  
お風呂の準備をして  
着替えを用意する  
だけよ

じ…じゃあ  
遅くなってる  
ときは何してるの？









はあ…  
気持ちよかった  
あ、そうだ  
サチコさん

ユウイチくんは  
会っても僕らの関係は  
黙っておいてあげるから  
安心してね

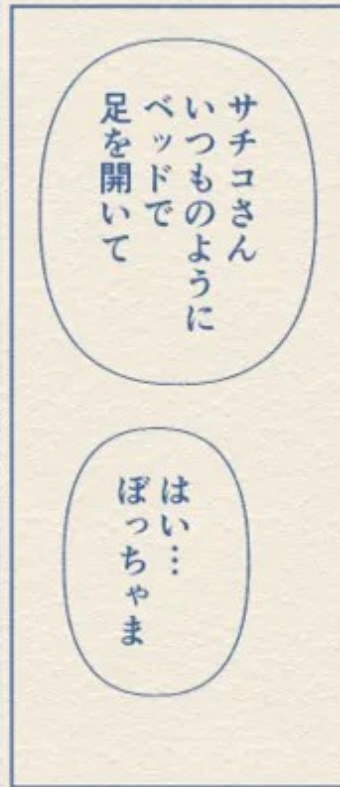
は、はい  
お願いします

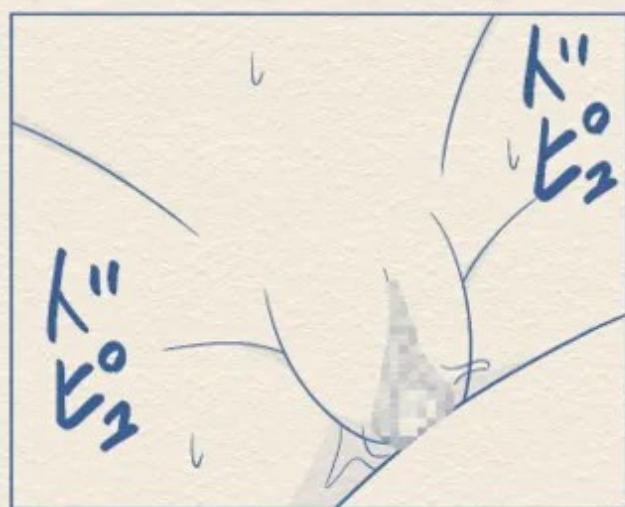
サチコさんは僕の  
お気に入りだからね…  
特別に  
扱ってあげるよ…

ありがとう  
ございます…  
ぼっちゃま…

ナデ…  
ナデ…







END

その日  
母は夜9時過ぎに  
帰宅した

ハア

遅くなって  
ごめんね…

ハア

僕を心配させまいと  
急いで帰って  
来てくれたらしく  
息を切らせ  
髪もほどけてて  
なんかムワッとした

ハア

ハア

おまけに  
ブラをし忘れたのか  
汗でおっぱいに  
張り付いたブラウスから  
乳首が透けて見えていた…  
まさか  
痴漢に襲われた？

ハア

ハア

ハア

お坊ちやまとの  
ゲーム勝負の日

僕がゲームに  
集中してると  
お坊ちやまが  
母のおっぱいを…

え…  
ミ、ミツルくん  
なにしてるんだよ！

いいいのよ  
ユウイチ…  
ミツルぼっちゃまは  
ただ甘えてるだけ…  
ユウイチも  
小さい頃は  
よく私のおっぱいを  
触ってたじゃないの

いや  
それは昔の話だし！  
母さんは僕に触らせて  
くれないじゃないか  
やっぱ二人とも怪しい！

そ、そう？  
ユウイチが  
乳離れ  
しただけでしょ？

ユ…ユウイチも  
甘えたかったら  
いつでもいいのよ？

え！  
ほんと!?

その日から  
僕は  
母のおっぱいを  
いつでも  
触れるようになった…

**お買い上げ  
ありがとうございました**





お坊ちゃまの  
性処理道具にされた僕の母

発行 うき式  
2024年4月22日

© 2024 UKISHIKI